

調査結果のまとめ

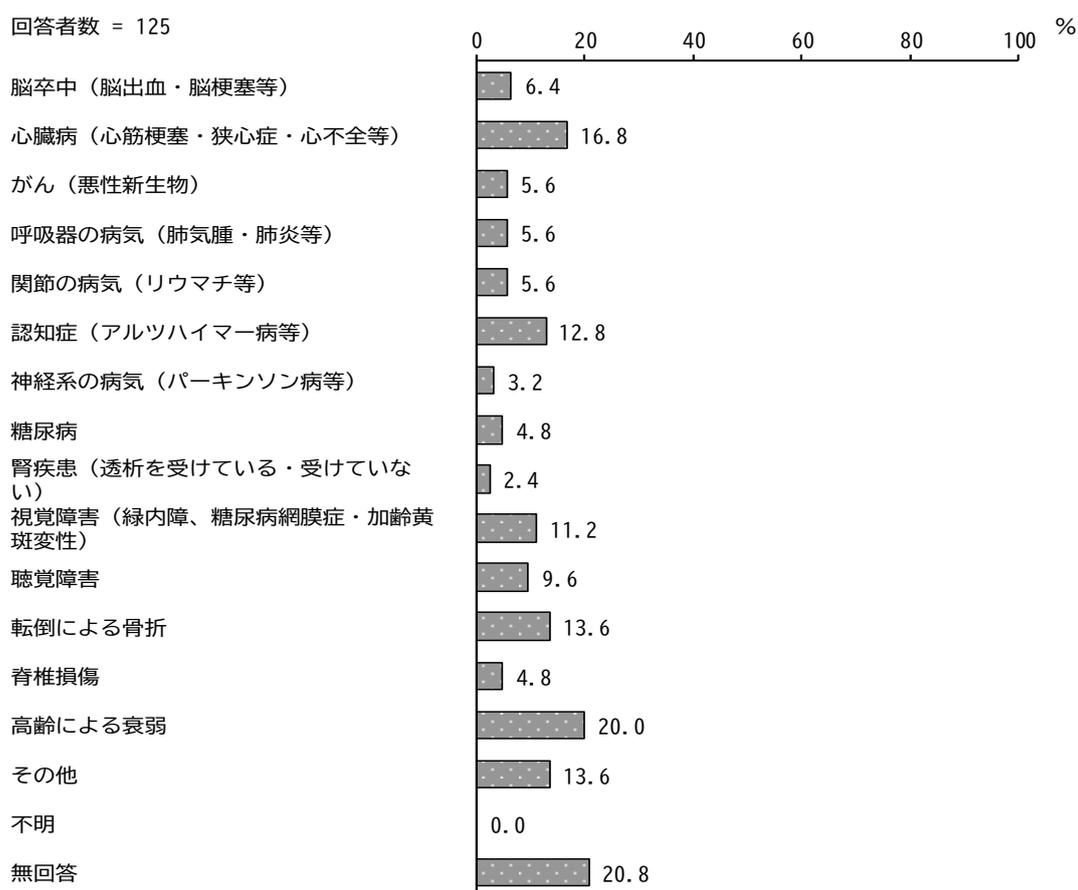
1 一般高齢者向け調査

介護・介助が必要になった主な原因について

介護が必要になった原因は、「高齢による虚弱」が20.0%と最も高く、生活習慣病が原因で介護が必要となった方は36.0%。筋骨格系の疾患では、筋骨格系で介護が必要になった方は24.0%となっています。

生活習慣病は予防が可能なため、国民健康保険や後期高齢者医療における健診などとの連携により、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施による健康づくりや介護予防の推進が欠かせないものです。

今回の調査では、高齢者をアウトドア派、インドア派、外交的、内向的で4つのタイプに分類（高齢者の外出タイプ別）し、分析を行うことで、タイプ別によって既存のアクティブな介護予防事業や講演やセミナーなどの事業へつなげることで、多様な選択肢により介護予防へとつなげていくことが必要であると考えられます。



からだを動かすことについて

運動の状況についてみると、15分くらい続けて歩いているかについてみると、「できない」が6.4%となっており、すべての設問でアウトドア派に比べ、インドア派で「できない」の割合が高く、特にインドア派内向的が顕著に高くなっています。

【タイプ別にみた15分くらい続けて歩いているか】

単位：%

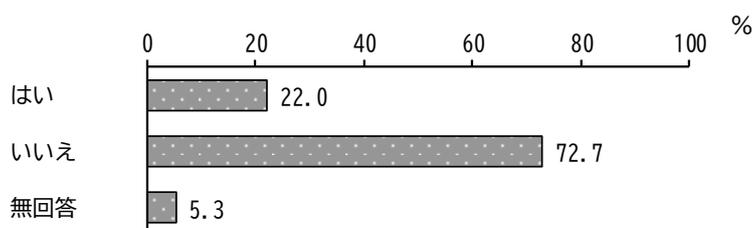
区分	回答者数 (件)	できる、 少しできる	できる、 少しできない	できない	無回答
全体	1369	71.7	17.0	6.4	4.8
インドア派 外交的	97	63.9	20.6	8.2	7.2
インドア派 内向的	101	44.6	22.8	30.7	2.0
アウトドア派 外交的	636	80.5	14.8	3.3	1.4
アウトドア派 内向的	310	73.9	19.0	4.2	2.9

また、週1回以上外出しているかについてみると、「ほとんど外出しない」、「週1回」を合わせた“ほとんど外出しない方”は16.4%となっています。

また、外出を控えているかについてみると、「はい」が22.0%となっており、外出を控えている理由をみると、「足腰等などの痛み」が38.9%と最も高くなっています。

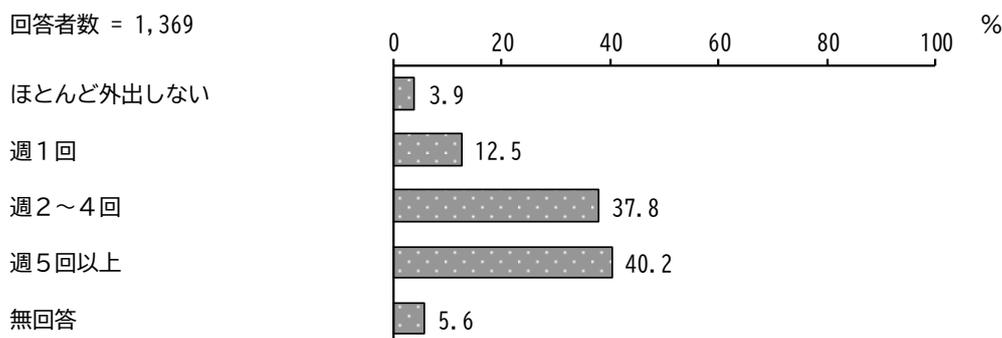
【外出を控えているか】

回答者数 = 1,369



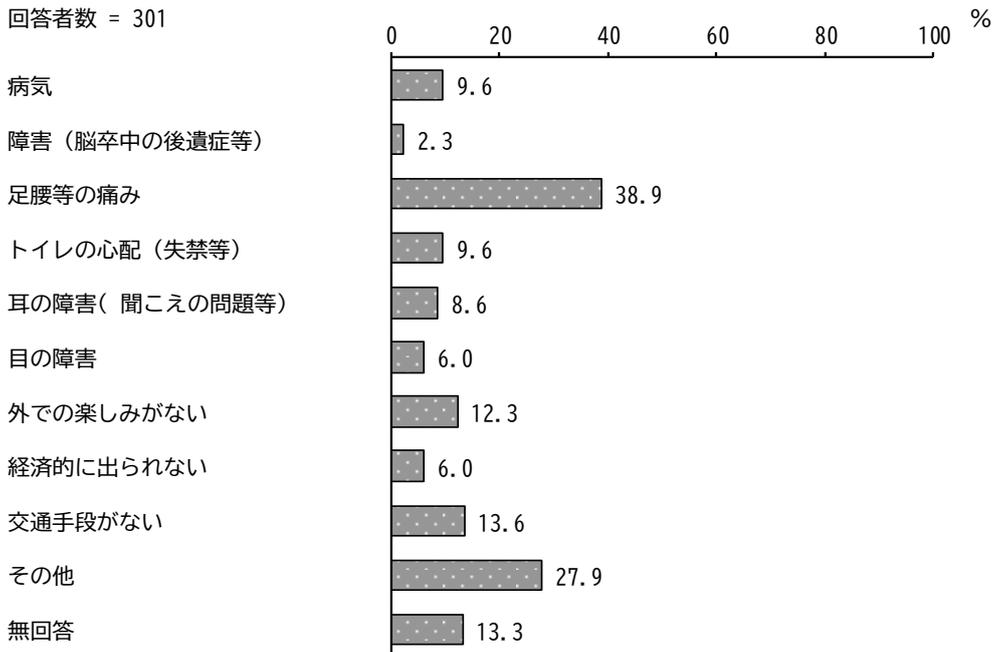
【週に1回以上は外出しているか】

回答者数 = 1,369



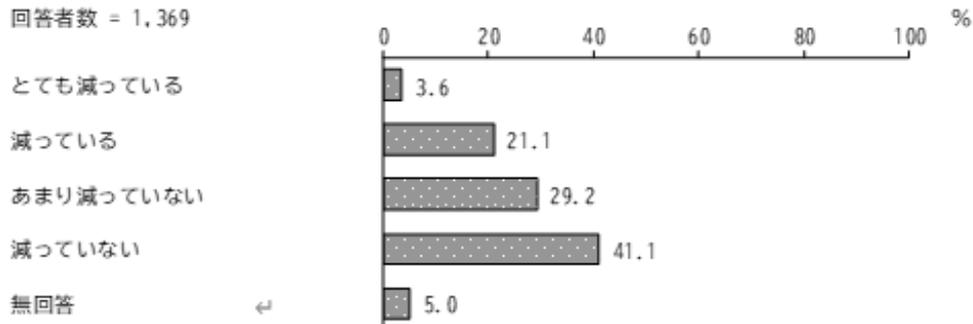
【外出を控えている理由】

回答者数 = 301



さらに、昨年と比べて外出の回数が減っていますかをみると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた“減っている人”が24.7%となっています。

回答者数 = 1,369



令和2年から3年にかけて新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出を控えた方も増えており、インドア派についてはフレイルが進行していることが考えられ、筋力が低下することで転倒にもつながっていることが考えられます。

そこで筋力トレーニングなどにより、外出がおっくうにならないためにも介護予防事業が有効であることを普及・啓発するとともに、フレイルは、運動器の問題だけではなく、食事による影響もあるためフレイルに関する正しい知識の普及・啓発が必要となります。

毎日の生活について

毎日の生活について物忘れが多いかについてみると、「はい」が44.3%となっており、タイプ別にみると、インドア派外交的が57.7%と最も高くなっており、アウトドア派外交的に比べ19.5ポイント高くなっています。

【タイプ別にみた物忘れが多いか】

単位：%

区分	回答者数 (件)	はい	いいえ	無回答
全 体	1369	44.3	49.5	6.1
インドア派 外交的	97	57.7	36.1	6.2
インドア派 内向的	101	57.4	36.6	5.9
アウトドア派 外交的	636	38.2	56.6	5.2
アウトドア派 内向的	310	45.5	50.3	4.2

今日が何月何日かわからない時があるかについてみると「はい」が25.6%となっています。

趣味についてみると、「思いつかない」が23.4%となっており、要支援・事業対象者で41.9%と一般高齢者に比べ19.7ポイント高くなっています。

タイプ別にみると、インドア派内向的が57.4%と最も高くなっており、アウトドア派外交的に比べ40.7ポイント高くなっています。

【タイプ別にみた趣味の有無】

単位：%

区分	回答者数 (件)	趣味あり	思いつかない	無回答
全 体	1369	61.6	23.4	15.0
インドア派 外交的	97	59.8	26.8	13.4
インドア派 内向的	101	32.7	57.4	9.9
アウトドア派 外交的	636	75.5	16.7	7.9
アウトドア派 内向的	310	61.3	31.0	7.7

生きがいについてみると、「思いつかない」が33.5%となっており、タイプ別にみると、インドア派内向的が63.4%と最も高くなっており、アウトドア派外交的に比べ35.7ポイント高くなっています。

【タイプ別にみた生きがいの有無】

単位：%

区分	回答者数 (件)	生きがいあり	思いつかない	無回答
全 体	1369	47.1	33.5	19.4
インドア派 外交的	97	39.2	41.2	19.6
インドア派 内向的	101	23.8	63.4	12.9
アウトドア派 外交的	636	59.4	27.7	12.9
アウトドア派 内向的	310	42.9	45.8	11.3

認知機能については、外出することで移動での様々な判断(道順を覚えるや切符の購入、乗り換えなど)や人と会うことによる会話などにより、認知機能は維持できるものと考えられるため、通いの場や集いの場などの機会の提供が重要であると考えられます。

また、インドア派で外交的な方は、趣味や生きがいがある割合もアウトドア派と同等であるため、生きがいづくりには、アウトドア派か外向的のどちらかが入っていることが重要であるものの、健康づくりには、外出が必須であることが考えられます。

インドア派や内向的であっても、外部との交流ができるような機会や仕組みとして、高齢者であっても積極的にホームページやSNSを活用した情報発信や情報提供が必要であると考えられます。

地域での活動について

地域での活動について地域住民の有志による活動に参加者として参加したいかについてみると、「すでに参加している」、「ぜひ参加したい」、「参加してもよい」を合わせた“参加しているまたは参加したい人”が56.4%となっています。一方、「参加したくない」が31.3%となっており、要介護度別にみると、要支援・事業対象者が52.7%と一般高齢者に比べ23.1ポイント高くなっています。

【要介護度別にみた地域活動に参加者として参加したいか】

単位：%

区分	回答者数 (件)	ぜひ参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している	無回答
全 体	1369	6.6	44.0	31.3	5.8	12.4
一般高齢者	1205	6.7	46.4	29.6	5.7	11.5
要支援・事業対象者	74	5.4	21.6	52.7	4.1	16.2

現在の地域での活動への参加についてタイプ別にみると、他に比べ、インドア派内向的で「全く活動に参加していない」の割合が、アウトドア派外交的で「週1回以上活動に参加している」の割合が、アウトドア派内向的で「全く活動に参加していない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	週1回以上活動に 参加している	週1回未満活動に 参加している	全く活動に参加し ていない	無回答
全 体	1393	41.4	23.8	17.4	17.4
インドア派 外交的	97	30.9	30.9	23.7	14.4
インドア派 内向的	101	12.9	15.8	51.5	19.8
アウトドア派 外交的	636	57.5	27.2	10.1	5.2
アウトドア派 内向的	310	34.2	26.8	26.5	12.6

地域での活動は、グループ活動だけではなく、セミナーや学びの場など個人でも楽しめるコンテンツの充実を図り、参加の機会の選択肢を増やす必要があると考えられます。また、人との交流により、地域活動の活性化も図られることから、地域での活動の情報を入手する機会や、活動に参加するきっかけを積極的につくっていくことが必要であると考えられます。

たすけあいについて

友人・知人と会う頻度についてみると、「月に何度か会う」が26.0%と最も高く、次いで「週に何度かある」が25.3%となっています。一方、「ほとんどない」が18.1%となっており、タイプ別にみると、「ほとんどない」がインドア派、アウトドア派ともに内向的で割合が高く、インドア派内向的が48.5%と最も高く、アウトドア派外交的に比べ40.3ポイント高くなっています。

そのため、友人・知人と会う頻度を高めるために、身近な地域でのサロン活動など増やし、通いの場や集いの場をより一層提供していくことが必要であると考えられます。また、多様な選択肢によりグループ活動だけではなく、セミナーや学びの場などを提供するとともに、情報を積極的に伝えるアプローチを提供し、友人づくりや仲間づくりのきっかけが必要であるとも考えられます。

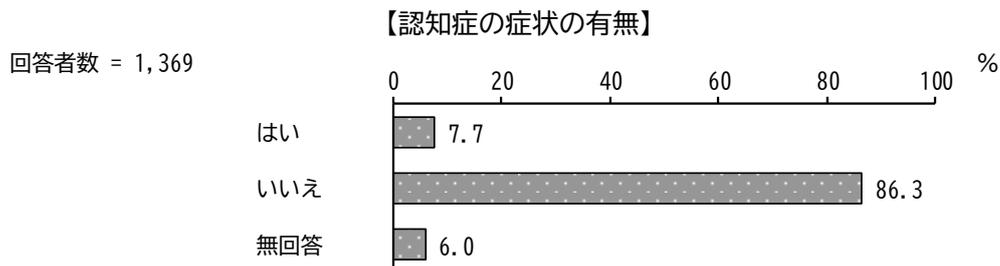
【タイプ別にみた友人・知人と会う頻度】

単位：%

区分	回答者数 (件)	毎日会う	週に何度か会う	月に何度か会う	年に何度か会う	ほとんどない	無回答
全 体	1369	6.8	25.3	26.0	16.1	18.1	7.7
インドア派 外交的	97	3.1	16.5	28.9	23.7	18.6	9.3
インドア派 内向的	101	4.0	8.9	17.8	14.9	48.5	5.9
アウトドア派 外交的	636	7.5	33.3	27.0	17.6	8.2	6.3
アウトドア派 内向的	310	7.1	16.8	27.1	14.2	30.0	4.8

認知症にかかる相談窓口の把握について

認知症の症状がある人がいるかについてみると、「はい」が7.7%となっています。



認知症に関する相談窓口を知っているかについてみると、「はい」が23.6%となっており、さらに認知症の症状がある人がいる方で「いいえ（相談窓口を知らない）」が51.9%と5割の人が相談窓口を知らない状況となっています。

【家庭内の認知症の人の有無別にみた認知症に関する相談窓口の認知度】

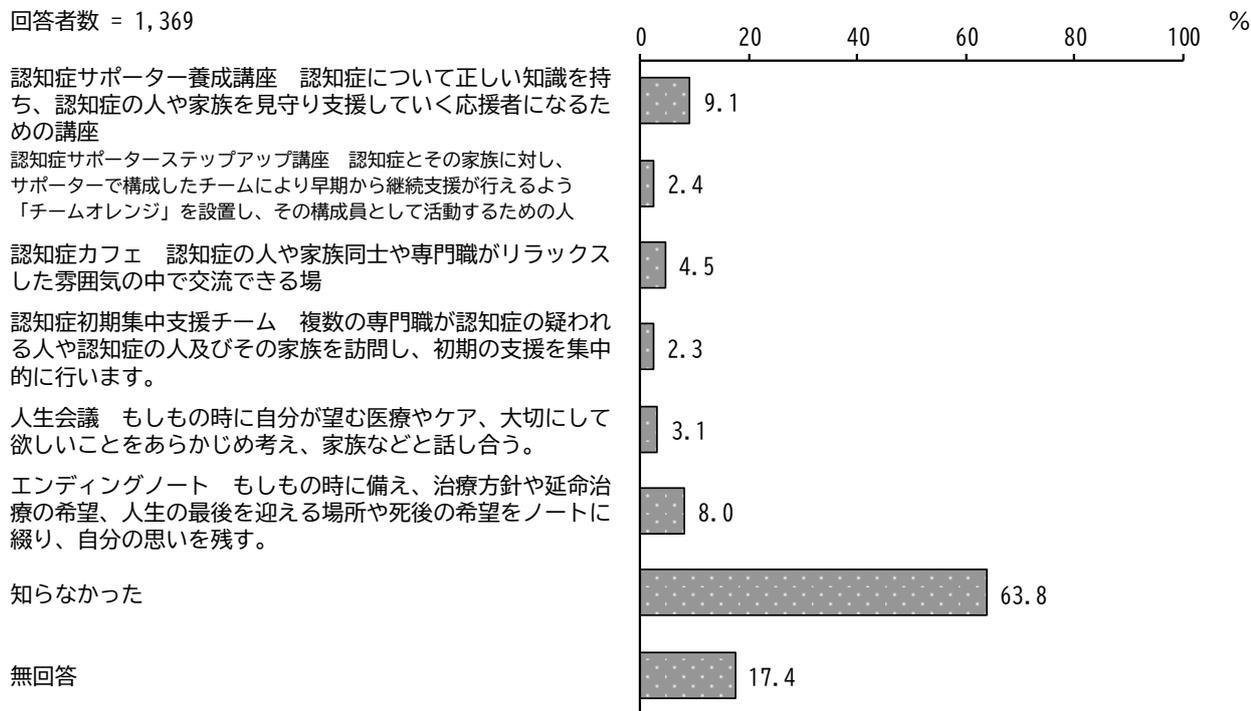
単位：%

区分	回答者数 (件)	はい (相談窓口を 知っている)	いいえ (相談窓口を 知らない)	無 回 答
全 体	1369	23.6	69.4	7.0
はい (認知症の症状がある人がいる)	106	46.2	51.9	1.9
いいえ (認知症の症状がある人はいない)	1181	22.5	73.7	3.8

また、「(15) 犬山市の高齢者施策全般」において本市での認知症に関する施策をしていますかについてみると、「知らなかった」が63.8%で最も高くなっています。

【本市での認知症に関する施策の認知度】

回答者数 = 1,369



これらのことから、認知症に関する相談窓口や取組みの周知が必要であることが分かります。

高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）について

高齢者あんしん相談センターを知っているかについてみると、「事業内容まで知っている」が11.0%、「名前だけは知っている」が47.9%と約6割弱は認知しており、要介護度別にみると、「事業内容まで知っている」が要支援・事業対象者で28.4%と一般高齢者に比べ18.7ポイント高くなっています。

【要介護度別にみた高齢者あんしん相談センターの認知度】

単位：%

区分	回答者数 (件)	事業内容まで 知っている	名前だけは知っ ている	知らない	無回答
全 体	1369	11.0	47.9	36.4	4.7
一般高齢者	1205	9.7	48.4	37.7	4.2
要支援・事業対象者	74	28.4	51.4	10.8	9.5

高齢者あんしん相談センターを利用したことがあるかについてみると、「利用（相談）したことがある」が9.9%となっており、要介護度別にみると、要支援・事業対象者が55.4%と一般高齢者に比べ48.2ポイント高くなっています。

【要介護度別にみた高齢者あんしん相談センターの利用経験の有無】

単位：%

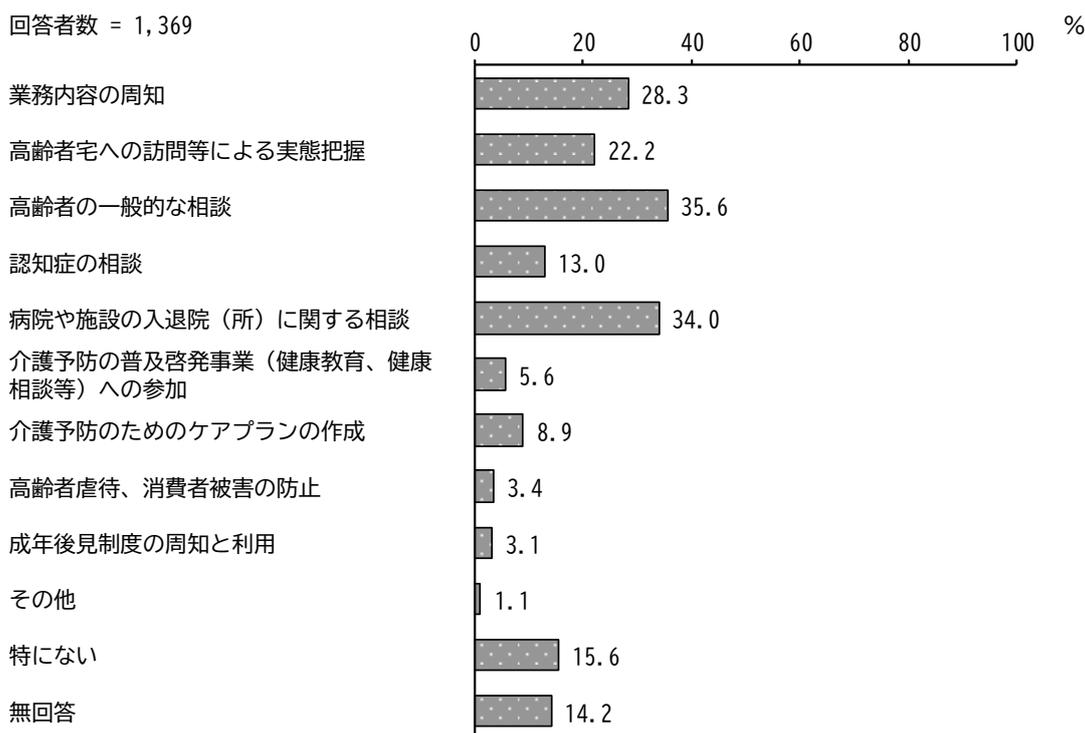
区分	回答者数 (件)	利用（相談） した ことがある	利用（相談） した ことはない	無回答
全 体	1369	9.9	85.0	5.0
一般高齢者	1205	7.2	88.4	4.4
要支援・事業対象者	74	55.4	37.8	6.8

実際に高齢者あんしん相談センターを利用したことがある回答者からは「利用しやすかった（雰囲気、担当者の対応を含め）」の割合が86.0%と最も高くなっています。また、高齢者あんしん相談センターに力を入れて欲しい事業としては「高齢者の一般的な相談」の割合が35.6%と最も高く、次いで「病院や施設の入退院（所）に関する相談」の割合が34.0%、「業務内容の周知」の割合が28.3%となっています。

【高齢者あんしん相談センターの印象】

区分	回答者数（件）	利用しやすかった（雰囲気、担当者の対応を含め）	気軽に相談できる雰囲気ではなかった	担当者の対応があまり良くなかった	その他	無回答
全体	136	86.0	6.6	4.4	1.5	1.5
一般高齢者	87	88.5	4.6	4.6	2.3	—
要支援・事業対象者	41	80.5	12.2	2.4	—	4.9

【高齢者あんしん相談センターに特に力を入れてほしい事業】

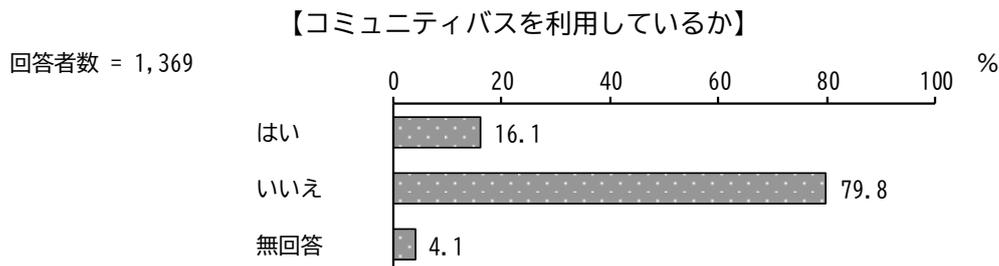


高齢者あんしん相談センターの認知率が6割弱あるのに対し、利用したことがある方は1割程度となっており、利用率向上のための対策が必要と考えられます。

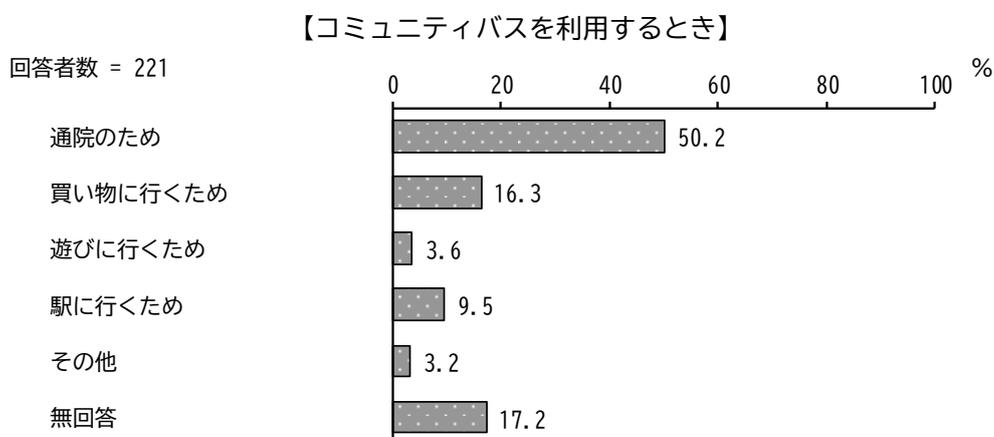
また、高齢者あんしん相談センターを利用したことがある方からは、おおむね利用しやすかったと評価されていますが、特に力を入れてほしい事業を考慮し、より利便性の高い施設とする必要があると考えられます。

犬山市の交通支援施策について

コミュニティバスを利用するかについてみると、「はい」が16.1%と2割を下回っています。



主にどのような時にコミュニティバスを利用するかについてみると、「通院」が50.2%で最も高くなっています。



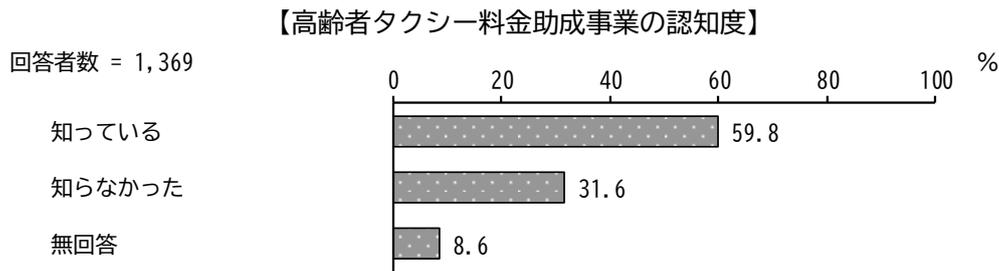
コミュニティバス事業について、今後どのようなことを求めるかについてみると、「特にない」が27.2%で最も高く、次いで「バスの本数を増やしてほしい」が17.6%、「土日も運行してほしい」が14.6%となっています。要介護度別にみると、要支援・事業対象者で「バスの本数を増やしてほしい」が31.1%と一般高齢者に比べ14.3ポイント高くなっています。

【要介護度別にみたコミュニティバス事業に今後求めること】

単位：%

区分	回答者数(件)	利用料を安くしてほしい	バス停の数を増やしてほしい	バスの本数を増やしてほしい	路線を増やしてほしい	土日も運行してほしい	その他	特にない	無回答
全体	1369	2.7	7.4	17.6	6.6	14.6	2.0	27.2	21.8
一般高齢者	1205	2.8	7.8	16.8	6.6	15.2	2.2	27.6	21.2
要支援・事業対象者	74	2.7	5.4	31.1	6.8	5.4	1.4	27.0	20.3

満 85 歳以上の方に、閉じこもりの防止や少しでも外出を支援するためにタクシーの基本料金を助成しています。この事業について知っていたかをみると、「知っている」が 59.8%、となっています。



タクシー助成について、今後どのようなことを求めるかについてみると、「免許証の自主返納者を助成の対象にしてほしい」が 17.8%で最も高く、次いで「利用券をもらえる年齢を下げしてほしい」が 17.1%となっています。要介護度別にみると、一般高齢者で「免許証の自主返納者を助成の対象にしてほしい」が 18.8%と要支援・事業対象者に比べ 14.7 ポイント高くなっています。また、要支援・事業対象者で「利用券をもらえる年齢を下げしてほしい」が 28.4%と一般高齢者に比べ 12.0 ポイント高くなっています。

【要介護度別にみた高齢者タクシー料金助成事業に今後求めること】

単位：%

区分	回答者数(件)	利用券の支給枚数を増やしてほしい	利用券をもらえる年齢を下げしてほしい	手続きを簡単にしてほしい	利用可能なタクシー会社を増やしてほしい	免許証の自主返納者を助成の対象にしてほしい	1回に利用できる助成額を増やしてほしい	その他	特にない	今のままでよい	無回答
全 体	1369	8.8	17.1	5.8	1.4	17.8	8.5	0.7	15.4	5.4	19.1
一般高齢者	1205	8.5	16.4	5.7	1.4	18.8	8.1	0.8	16.2	5.7	18.3
要支援・事業対象者	74	16.2	28.4	2.7	1.4	4.1	18.9	—	5.4	1.4	21.6

新型コロナウイルス感染症拡大による生活変化について

新型コロナウイルス感染症拡大による生活などの変化についてみると、「外出することが減った」が53.0%で最も高く、次いで「友人と過ごす時間が減った」が40.0%、「近隣の人と関わる機会が減った」が30.5%となっています。要介護度別にみると、一般高齢者で「友人と過ごす時間が減った」が41.2%と要支援・事業対象者に比べ11.5ポイント高くなっています。要支援・事業対象者で「気分が晴れないと感じることが増えた」が28.4%と一般高齢者に比べ14.1ポイント高くなっています。

新型コロナウイルス感染症拡大により、外出することが減った方が半数以上と多くなっていると推測されます。

【要介護度別にみた新型コロナウイルス感染症拡大による生活などの変化】

単位：%

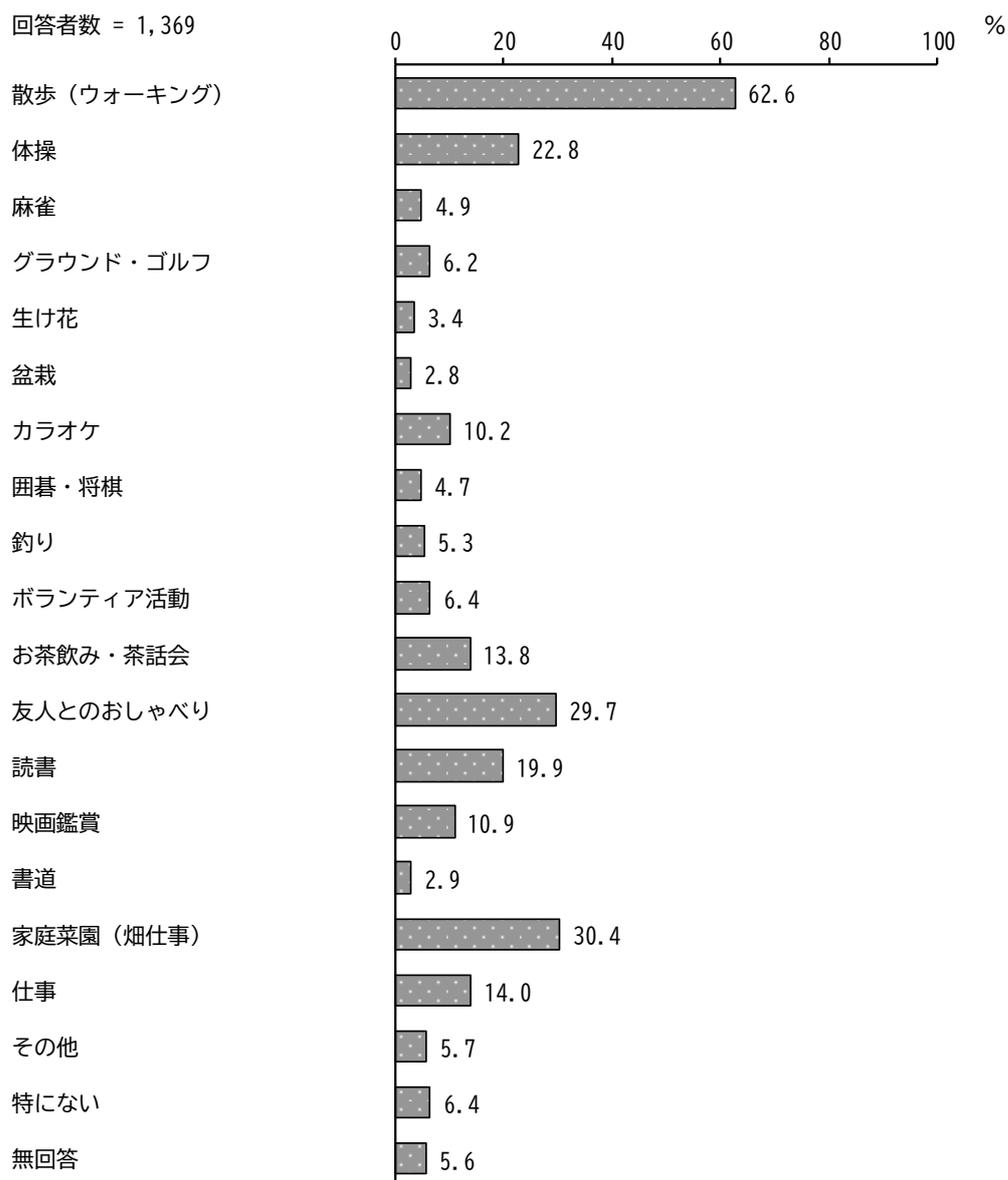
区分	回答者数(件)	た外出することが減った	病院への通院回数が減った	運動不足を感じるようになった	気分が晴れないと感じることが増えた	生活時間が乱れた	近隣の人と関わる機会が減った	友人と過ごす時間が減った	特に意識や行動に変化はない	その他	無回答
全 体	1369	53.0	4.8	20.5	14.8	4.2	30.5	40.0	19.1	2.2	6.1
一般高齢者	1205	53.1	4.6	20.5	14.3	3.9	30.5	41.2	19.8	2.2	5.5
要支援・事業対象者	74	63.5	10.8	25.7	28.4	5.4	37.8	29.7	13.5	1.4	2.7

犬山市の高齢者施策全般について

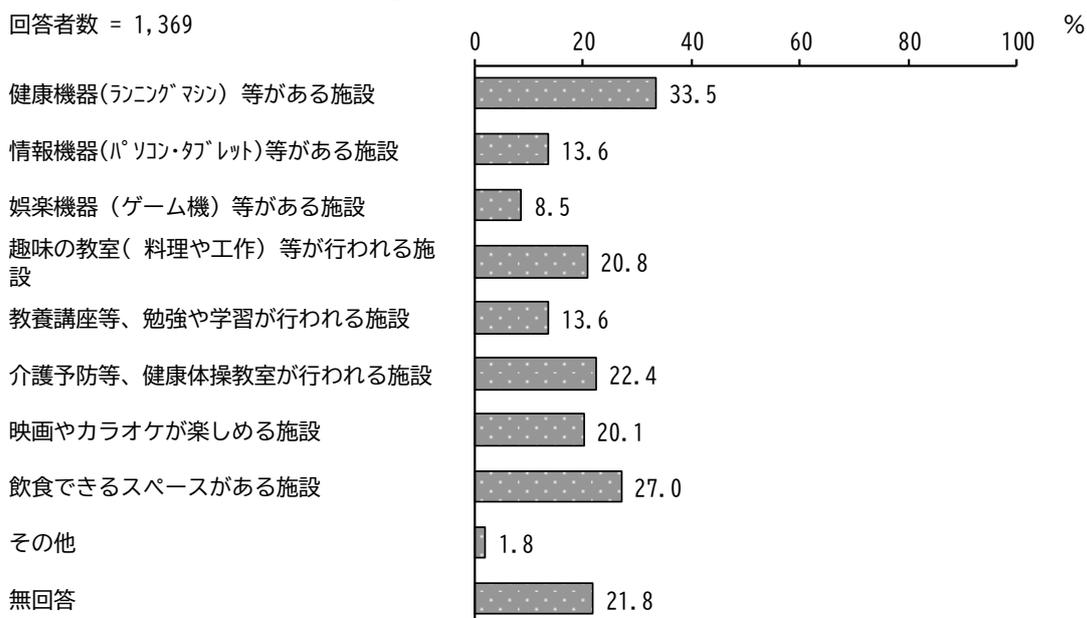
元気に生活するために、現在行っていることや、これから行いたいと思っていることについてみると、「散歩（ウォーキング）」が62.6%で最も高く、次いで「家庭菜園（畑仕事）」が30.4%、「友人とのおしゃべり」が29.7%となっています。

どのような高齢者施設なら利用してみたいかについてみると、「健康機器（ランニングマシン）等がある施設」が33.5%で最も高く、次いで「飲食ができるスペースがある施設」が27.0%、「介護予防等、健康体操教室が行われる施設」が22.4%となっています。

【元気であるために行っていること、行いたいこと】

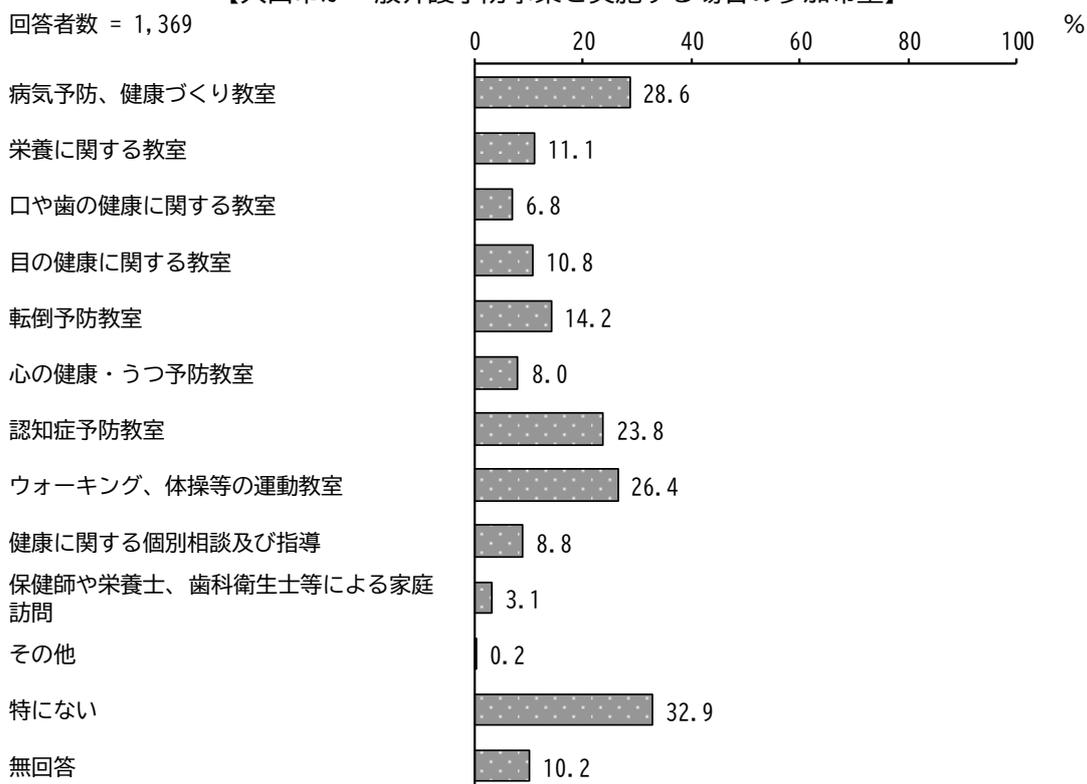


【利用してみたい高齢者施設】



また、今後犬山市が一般介護予防事業を実施するとき、参加を希望するか調査したところ、「特にない」を除き、「病気予防、健康づくり教室」の割合が 28.6%、「ウォーキング、体操等の運動教室」の割合が 26.4%と高くなっています。

【犬山市が一般介護予防事業を実施する場合の参加希望】



現在、行っていることや、これからやりたいと思っていることで一番多いのが「散歩(ウォーキング)」で、どのような高齢者施設なら利用してみたいことで一番多いのが「健康機器(ランニングマシン)等がある施設」となっており、ウォーキングのニーズが高いことが分かります。また、犬山市が行う一般介護予防事業としても、ウォーキングや健康づくりが望まれています。

介護保険料や介護サービスの利用料について

一般高齢者向け調査では「介護サービスも保険料もほどほどがよい」の割合が41.6%と最も高く、続いて「わからない」の割合が24.8%、「介護サービスは必要最低限でよいので、保険料はなるべく低く抑えてほしい」の割合が23.0%となっています。

しかしながら、居宅サービス利用者向けの調査では、「介護サービスも保険料もほどほどがよい」が一般高齢者向け調査よりも14.7ポイント増加し56.3%となり、「介護サービスは必要最低限でよいので、保険料はなるべく低く抑えてほしい」が8.4ポイント減少し14.6%となっています。

介護保険料について、対象者の介護度が高まるほどバランスの良い介護サービスの提供と保険料の設定が求められています。

【介護保険料と介護サービスのあり方】

一般高齢者向け調査

回答者数 = 1,369

介護サービスの充実を望むので、保険料は高くなってもよい

0 20 40 60 80 100 %

3.5

介護サービスも保険料もほどほどがよい

41.6

介護サービスは必要最低限でよいので、保険料はなるべく低く抑えてほしい

23.0

その他

0.7

わからない

24.8

無回答

6.3

居宅サービス利用者向け調査

回答者数 = 206

介護サービスの充実を望むので、保険料は高くなってもよい

0 20 40 60 80 100 %

3.9

介護サービスも保険料もほどほどがよい

56.3

介護サービスは必要最低限でよいので、保険料はなるべく低く抑えてほしい

14.6

その他

3.9

わからない

15.5

無回答

5.8

ご自身の将来について

自宅での在宅医療の実現、在宅医療の難しさ、終末期を迎えた時に過ごしたい場所について調査したところ一般高齢者向け調査と居宅サービス利用者向け調査において下記のとおり差異があります。

自宅での在宅医療の実現は居宅サービス利用者となり介護度が上がるほど、「実現は難しいと思う」が比率が49.4%→63.4%に増加している一方で、終末期を迎えたい場所として「自宅」を選択する比率も49.8%→54.9%と増加しています。

介護度が上がるほど、自宅での看取りを希望する割合が増加する一方で、在宅医療が困難であると判断する割合が増えています。その理由は、居宅サービス利用者が在宅医療において「家族・親族に負担をかけるから」(81.3%)、「急に病状が変わった時に対応できないから」(51.6%)の点を不安に思っているためと考えられます。

【自宅での在宅医療の実現可能性】

一般高齢者向け調査

回答者数 = 559

実現可能だと思う



実現は難しいと思う

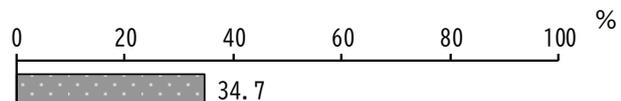
無回答

【自宅での在宅医療の実現可能性】

居宅サービス利用者向け調査

回答者数 = 101

実現可能だと思う



実現は難しいと思う

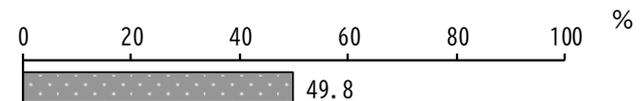
無回答

【終末期を迎えた時に過ごしたい場所】

一般高齢者向け調査

回答者数 = 1,369

自宅



有料老人ホーム又はサービス付き高齢者向け住宅等、介護保険以外の施設

特別養護老人ホーム等の介護保険施設

病院で入院を継続

ホスピス等の、苦痛をやわらげる緩和ケア施設

その他

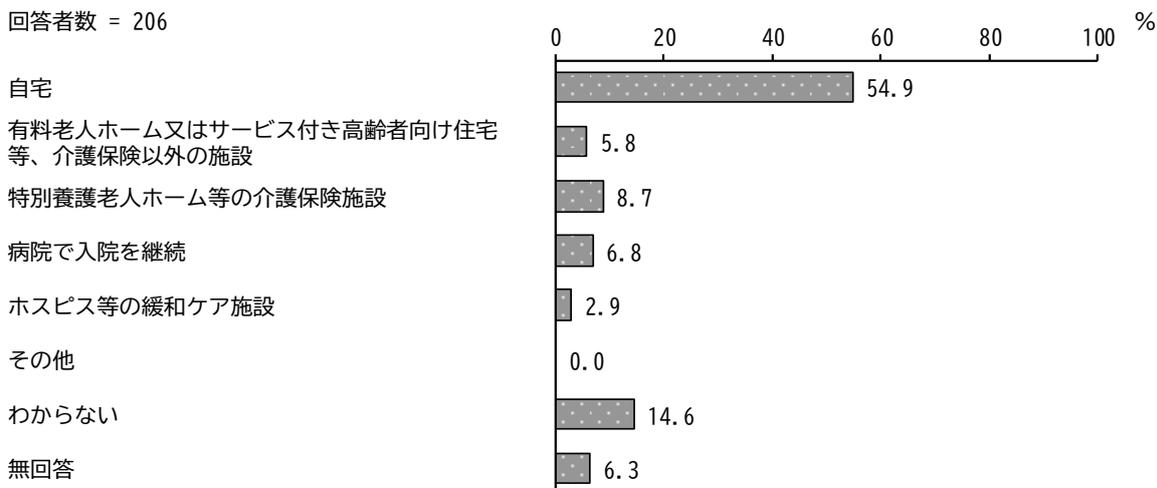
わからない

無回答

【終末期を迎えた時に過ごしたい場所】

居宅サービス利用者向け調査

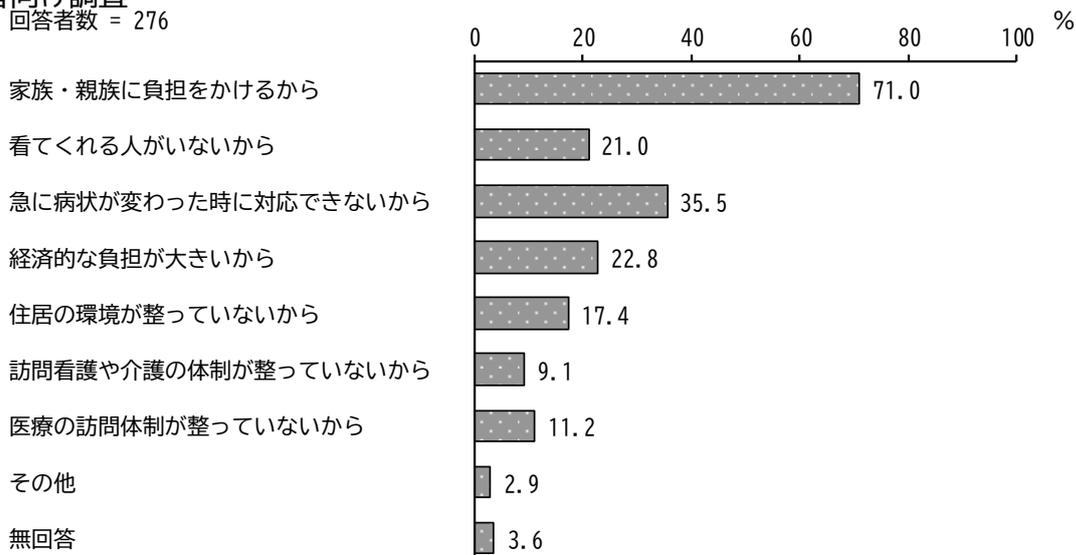
回答者数 = 206



【在宅医療が難しいと考える理由】

一般高齢者向け調査

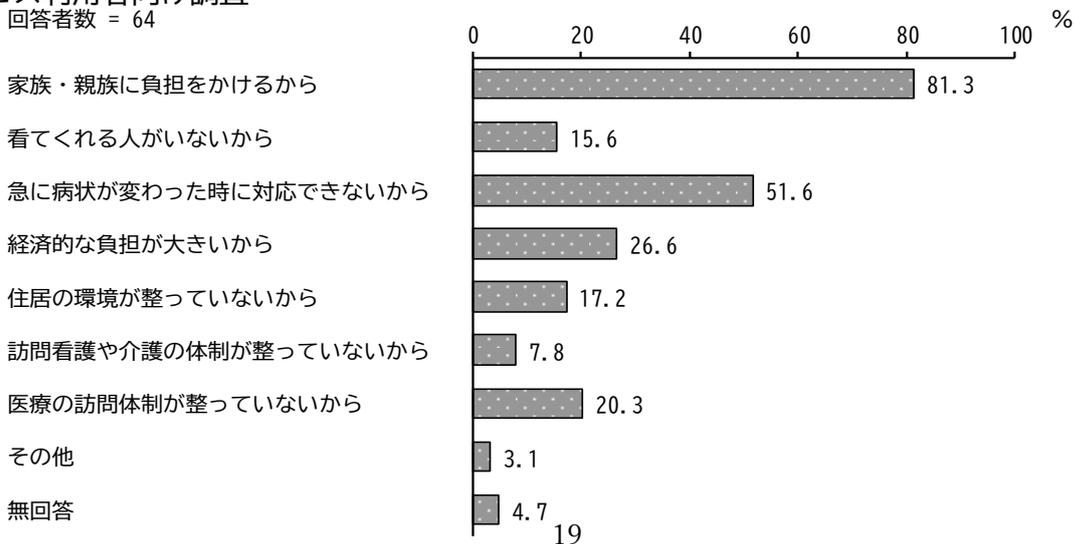
回答者数 = 276



【在宅医療が難しいと考える理由】

居宅サービス利用者向け調査

回答者数 = 64



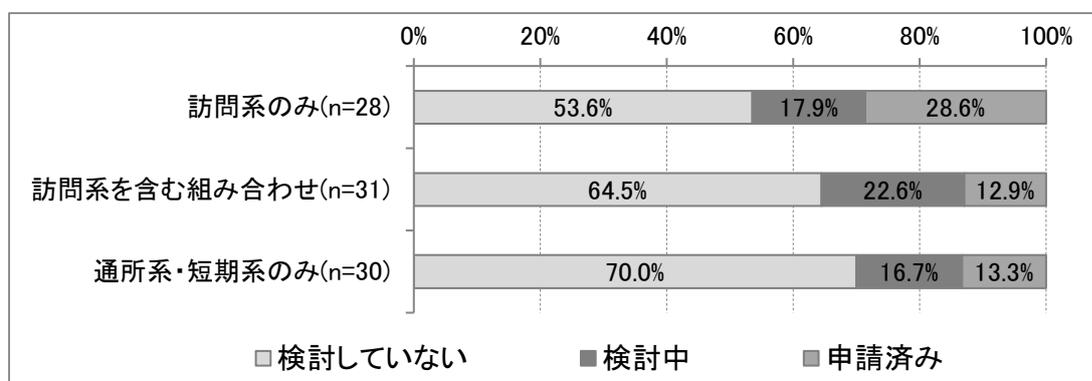
2 在宅介護実態調査

(1) 施設の検討状況について

施設の検討状況についてみると、要介護度3以上で、介護保険サービスを訪問系を含めた組み合わせを利用している方では「検討していない」の割合が64.5%、通所系・短期系のみを利用している方は70.0%と高くなっており、訪問系のみを利用している方では53.6%となっており、「検討中」「申請済み」の割合が高くなっています。

施設の検討状況で現在、検討中の方、申請済みの方で「訪問系のみ」「訪問系を含めた組み合わせ」のサービス利用者が多くなっていることから、訪問系サービスを受けられる環境が整うことで、施設利用をせずに自宅での生活を続けることができることがうかがえます。

サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）

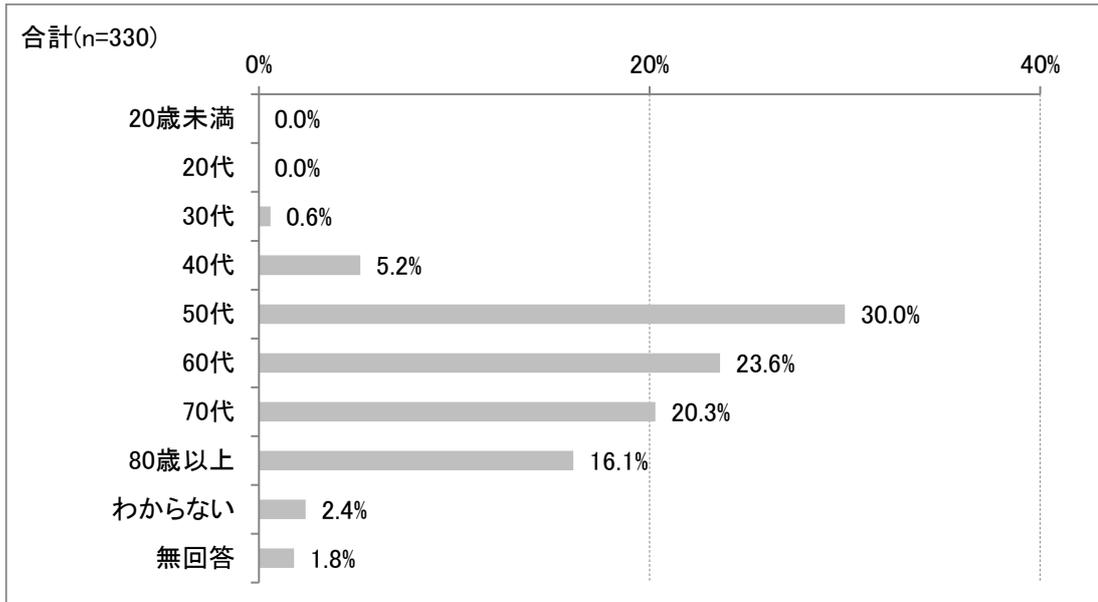


(2) 介護者の年齢の状況について

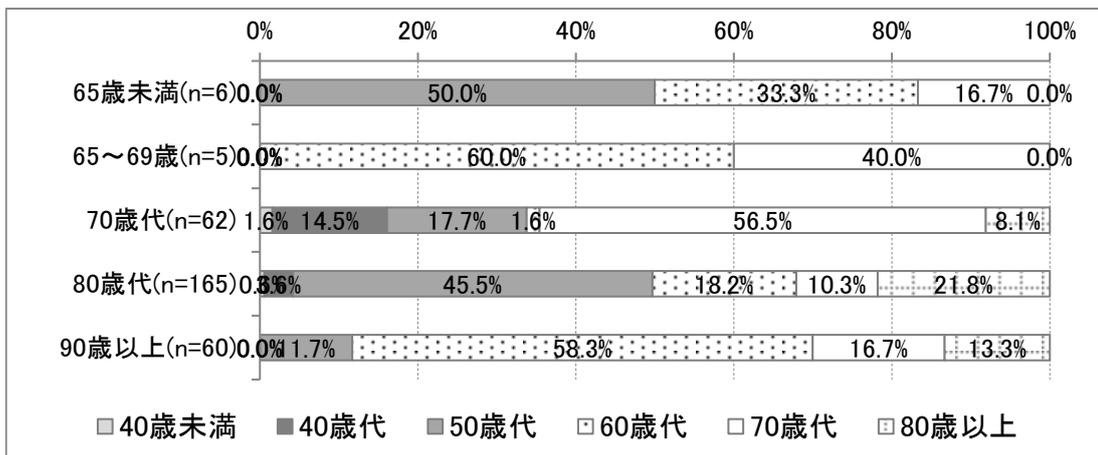
介護者の年齢は「50代」の割合が最も高く30.0%と、次いで、「60代(23.6%)」、「70代(20.3%)」の割合が高くなっている一方で、「20代」、「20歳未満」は共に0.0%となっています。

また、本人年齢別にみると、「65歳未満」では「50歳代」が50.0%と最も割合が高く、「65～69歳」では「60歳代」が60.0%と最も割合が高く、「70歳代」では「70歳代」が56.5%と最も割合が高いと、70歳代までは同世代の介護者の割合が最も高くなっています。しかしながら、「80歳代」では「50歳代」が45.5%、「90歳以上」では「60歳代」が58.3%とそれぞれ最も割合が高い介護者の年齢層が子ども世代に移っていると考えられます。

主な介護者の年齢



本人の年齢別・主な介護者の年齢



(3) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービスについて

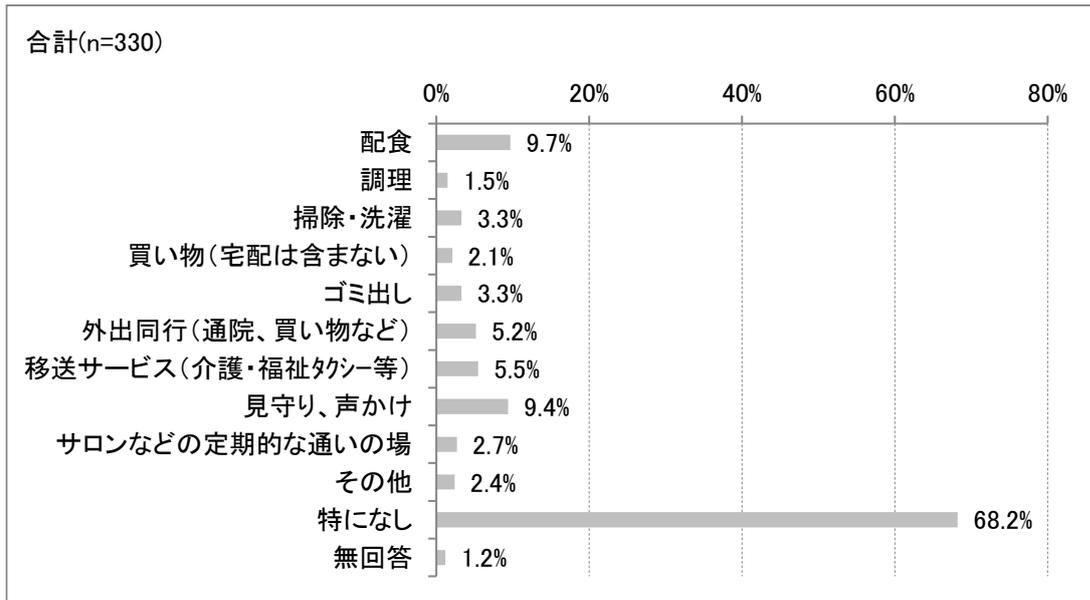
在宅生活を続ける上で、充実が必要と感じている支援・サービスを調査したところ、「特になし」の割合が最も高く 68.2%となっています。次いで、「配食 (9.7%)」、「見守り、声かけ (9.4%)」となっています。

また、在宅生活を続けるうえで、介護保険サービスを利用していない方が 24.0%いますが、介護保険サービスを利用しない理由として、「本人にサービス利用の希望がない」が 37.9%、「住宅改修・福祉用具貸与・購入のみを利用するため」17.2%などがあげられています。

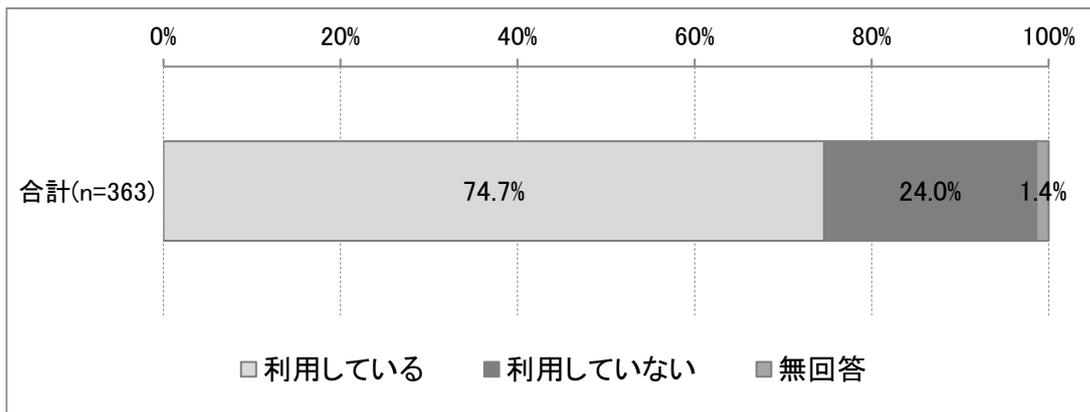
在宅生活を継続するために望まれているサービスは概ね提供されていると考えられます。

また、現在介護保険サービスを利用していない場合でも、利用しない理由として、介護保険サービスへの不満が主な理由となっていないことが分かります。

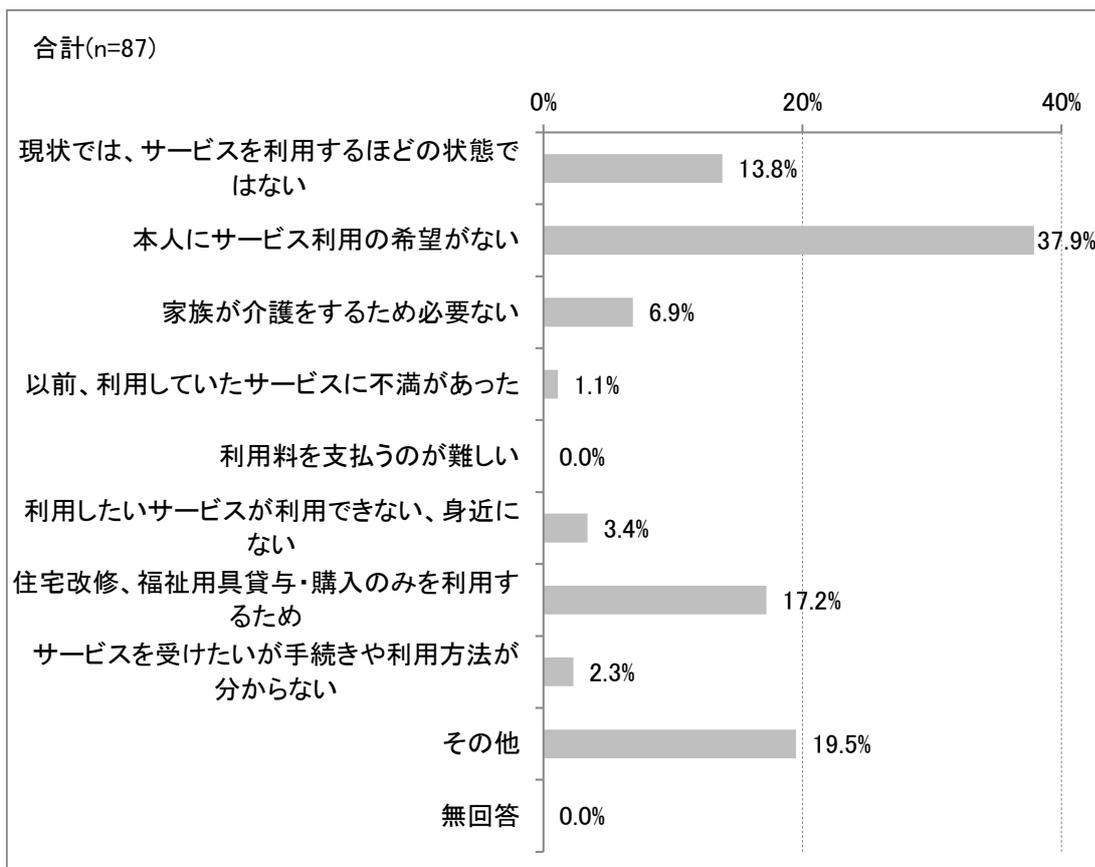
在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス



介護保険サービスの利用の有無



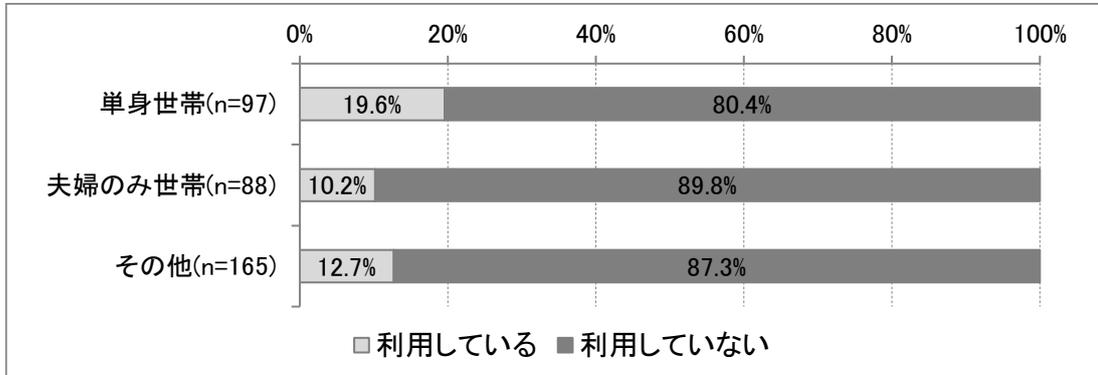
介護保険サービスの未利用の理由



(4) 訪問診療について

訪問診療の利用割合についてみると、単身世帯で最も高く、要介護度が上がるにつれて、訪問診療を利用する割合が高くなる傾向にあります。

世帯類型別・訪問診療の利用割合



要介護度別・訪問診療の利用割合

